

知的障害教育課程の 授業改善アシスト

(通称：授業改善アシスト)



【手引】

使い方ガイド

※この手引では、以下のとおり表記しています

「知的障害特別支援学校」 ▣ 「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校」

「合わせた指導」 ▣ 「各教科等を合わせた指導」

「知的障害教育課程の授業改善アシスト（通称：授業改善アシスト）」

- ▣ 「知的障害教育における学習評価から授業改善につなげるフレームワークに関する研究」
で開発されたツール（エクセルシート）

「フレームワーク」

- ▣ 教育課程のカリキュラム・マネジメントを実施するための「枠組み」

その「枠組み」に沿って目標設定から指導内容の設定、学習評価を行い、授業改善をするPDCAサイクルそのものを指す

千葉県総合教育センター 特別支援教育部

学習評価について

観点別学習状況の評価とは

学校における児童生徒の学習状況を、複数の観点から、それぞれの観点ごとに分析する評価のこと



評価規準とは

観点別学習状況の評価を的確に行うため、指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころ

- ・新しい学力観に立って子供たちが自ら獲得し身に付けた資質や能力の質的な面



(例) 算数 「主体的に学習に取り組む態度」
二つのものの重さの違いを、量りなどを用いて考えようとしている

評価基準（判断のための基準）

それぞれの評価規準で示された、付けたい力をどの程度習得しているかについて判断する目安



(例) 算数 「主体的に学習に取り組む態度」
自分で量りなどの器具を操作し、二つのものの重さの違いを比べて考えていた

学習指導要領における各教科の学習評価



【小学校児童指導要録】

[各教科の学習の記録]

I 観点別学習状況

学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、

「十分満足できる」状況と判断されるもの：A

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：B

「努力を要する」状況と判断されるもの：C

のように区別して評価を記入する。

II 評定（第3学年以上）

各教科の評定は、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を、

「十分満足できる」状況と判断されるもの：3

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：2

「努力を要する」状況と判断されるもの：1

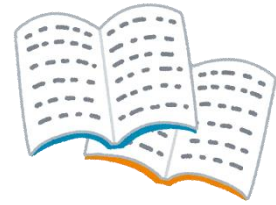
のように区別して評価を記入する。

評定は各教科の学習の状況を総合的に評価するものであり、「観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際、評定の適切な決定方法等については、各学校において定める。

〈目標と観点別評価規準のポイント〉

目 標（三つの柱）	観 点 別 評 価 規 準（3 観 点）	
知識及び技能	知識・技能	◆文末は「～している」 「～できる」
思考力、判断力、表現力等	思考・判断・表現	◆文末は「～している」 「～できる」
学びに向かう力、人間性等	主体的に学習に取り組む態度	◆文末は「～しようとしている」

【小学校 算数】



- 1 単元名 余りのあるわり算
- 2 内容のまとめり 第3学年「A 数と計算」(4) 除法
- 3 単元の目標

- (1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。
- (2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。
- (3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている。

4 単元の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 ・ 割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 ・ 余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ・ 除法が用いられる場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。(わり算探し など)

◆授業中に行うことのできる評価方法は？

- ・ ブロック操作
- ・ ノートの記述内容
- ・ 児童の話合いの様子



◆授業後に行うことのできる評価方法は？

- ・ ノート等の記述内容の分析、適用問題の解決状況の分析などを用いる。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」について、「算数日記」などで把握する。

算数日記

1231のあそび算・阪神電車の馬尺の数

39馬尺

阪神電車は39馬尺あります。
日に4馬尺のおぼえと、
何日の馬尺をおぼえるには
何日かかりますか。
(式) $39 \div 4 = 9$ あまり3
9 + 1 = 10 9日10日

◆【観点別学習状況の評価の総括】について

- ▣ 単元ごとに総括したのち学期ごとに総括しても、
幾つかの単元をまとめて一括して学期ごとに総括しても、
いずれでもよい。

【中学校 総合的な学習の時間】

- 1 単元名 人はなぜ働くのだろう？
～仕事を通して自己の生き方を考える～ （第2学年）
- 2 内容のまとめ 「勤労」
- 3 単元の目標

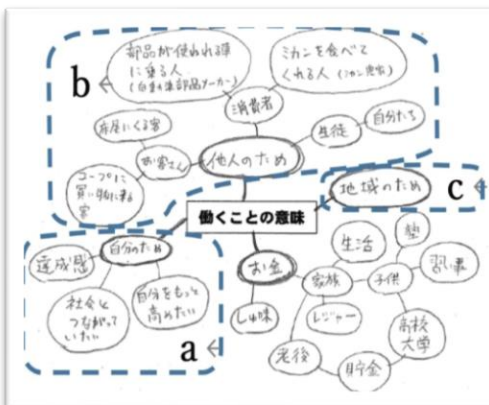


○地域の仕事や、その仕事に取り組む人々に関する探究的な学習を通して、働くことの意味と自分自身の生き方との関わりに気づき、働くことの意味を自分との関わりで考えるとともに、今後の学習や生活の在り方に積極的に生かすことができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意味について、収入を得るため以外にも、自分自身や他人のためになっていること、地域社会のためになっていること、それらは自己の成長とともに見いだすことができることに気付いている。 ・収集した情報を手際よく分類し、分かりやすい方法で表している。 ・働くことの意味を考える学習が、将来の職業選択のみならず、今後の自分自身の生き方に深く関わっていることを理解している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意味について、自分たちの考えと実際に働いている人々との考えの隔たりから、自分自身で課題を設定し、見通しをもっている。 ・他者に自分の考えが伝わるように、目的に合わせて情報を分類したり、効果を意識して表現方法を組み合わせたりしている。 ・相手や目的に応じて自分自身の考えをまとめ、適切な方法で表現している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、自身の活動を振り返りながら次時の活動に生かそうとしている。 ・仕事と自分との関わりに関心をもち、今後の学習や生活の在り方を積極的に考えようとしている。

◆評価規準「知識・技能」



整理・分析時の生徒Aのウェビングマップと記述

インタビューやアンケートから、働く理由は「お金のため」「他人のため」「自分のため」①「地域のため」の4つであることが分かりました。②一番意外だったのが、「自分のため」という意見です。今度職場体験で行く事業所の方も、「自分の技術をさらに高めたい」と話していました。また、「他人のため」とは学校の先生とかしか考えていませんでしたが、ミカン農家の方が「このミカンを食べてくれる人のため」と言っていて、③直接会わない人も含まれるんだと思いました。

Q & A 先生方の質問にお答えします



Q 1 1回の授業で、3つの観点全てを評価しなければならないのですか？

A 1 毎回の授業だけではなく原則として単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要です。

Q 2 「十分満足できる」状況（A）は、どのように判断したらよいのですか？

A 2 「十分満足できる」状況（A）と判断するのは、評価規準に照らし、児童生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断される場合です。

児童生徒の姿は多様に想定されるので、学年会や教科部会等で情報を共有することが重要です。

Q 3 障害のある児童生徒の学習評価について、どのようなことに配慮すべきですか？

A 3 基本的な考え方は、障害のある児童生徒の学習評価についても変わるものではありません。このため、障害のある児童生徒については、特別支援学校等の助言または援助を活用しつつ、個々の児童生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を行い、その評価を適切に行うことが必要です。また、指導要録の通級による指導に関して記載すべき事項が個別の指導計画に記載されている場合には、その写しをもって指導要録への記入に替えることも可能としました。



- 参考・「特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料」令和2年4月文部科学省
・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 教育課程研究センター
文部科学省 国立教育政策研究所 から抜粋して改編
・「学習評価の在り方ハンドブック」国立教育政策研究所教育課程研究センター

授業改善アシスト活用の流れ



入力を始める前に

表計算ソフト「Excel」が使えるパソコン等で、マクロを有効にしてから入力を始めてください。（マクロを有効にする方法は、千葉県総合教育センターWebサイトの「セキュリティリスク」によるマクロブロックへの対応方法を参照）

各シートの削除や、シート見出しの名前の変更は行わないでください。（不具合の原因となります）

授業改善アシストの中の「手順シート」の番号と次項以降の番号はリンクしているので、対応させながら、活用してください。

*シートには入力できる箇所が多くあります。「埋める」といった考え方ではなく、活用する視点で利用してください。



<エラー・不具合等の報告、お問い合わせは>
千葉県総合教育センター特別支援教育部
mail : sosetokusi@chiba-c.ed.jp

①設定シート

(1) 指導形態 (2) 教科等を設定する

2 表示設定

選択でボタンの色変更、教科等の選択ボタンの表示

(1) 指導形態を選択

教科別

合わせた指導

教科別、合わせた指導に応じて必要な行のみ表示

(2) 教科等を選択

合わせた指導の場合、取り扱う教科等を複数選択

生活 (特別支援学校)	生活 (小学校)	国語	社会	算数 数学
理科	音楽	図画工作 美術	体育 保健体育	職業・家庭
外国語	外国語活動	特別の教科 道徳	特別活動	自立活動

自立活動は必ず表示される

指導形態、教科等をクリックすると、クリックした教科のシートが表示される。

* (1) 指導形態 合わせた指導

(2) 生活（特別支援学校）、国語、社会をクリックした際の例



① 設定シート

2 (3) 表示人数 (4) 学習指導要領の表示等を設定する

(3) 「各教科等実態把握シート」「個別シート」の表示人数

1人 2人 3人 4人
5人 6人 7人 8人

表示人数
再設定

※注意事項

人数を後から増やすことはできません。
その際は、「表示人数再設定ボタン」を押して、
最初からやり直してください。

選択でボタンの色変更、シートの表示

(4) 知的障害特別支援学校の各教科の目標・内容の一覧の表示

全て表示 全て非表示

表示する教科

生活 国語 社会 算数
数学
理科 音楽 図画工作
美術 体育
保健体育
職業・家庭 外国語活動
外国語

人数、目標等の一覧の表示を
クリックすると、クリックした
シートが表示される。

(5) 手順の確認、入力へ

手順シートへ 直ま 入力手順へ

A B 個別A 個別B 比較全 比較1 比較2 比較3 比較4 集団 まとめ 生 国 社

3 (5) 手順シートへ をクリックする

手順シート

- ・ 流れの全体像を確認できる
- ・ 入力する箇所が黄色で示されており、入力する内容が分かる
- ・ 入力する箇所や転記される箇所の確認ができる
- ・ 入力の途中でも、入力したい箇所をクリックすることで、入力箇所まで移動することができる

授業改善アシスト 手順シート



① 設定シートで該当のボタンを選択し、入力のための準備をする

各教科等実態把握シート

② 単元（題材）に関する各教科等について、各段階等にチェックし、「実態」「目標」を入力

個別シート、比較シートに自動的に転記される

個別シート

個別比較シート

集団シート

「単元全体」の計画

③ 各教科等実態把握シートの内容を踏まえて、「単元の目標」と「指導内容」を入力

自動的に転記される

④ 個別比較シートを参照し、「学習集団の実態」「学習集団の目標」「学習集団における教科等別の目標」「指導内容」を入力

評価規準が自動的に転記される
※学習集団として目指すものであり、全員共通

⑤ 目標、指導内容等を踏まえて、「評価規準」を入力

⑥ 「実態」「教科等別の目標」「指導内容」「評価規準」を踏まえ、「手立て、指導上の留意点等」と「評価基準」を入力

自動的に転記される

⑦ 個別比較シートを参照し、学習集団としての「手立て、指導上の留意点等」を入力、留意する項目にチェック

「時期」に応じた計画

⑧ 「時期1」から設定した時期（最大「時期4」）までの「実態」「各時期の目標」「指導内容」を入力

自動的に転記される

⑨ 個別比較シートを参照し、「学習集団の実態」「学習集団の目標」「学習集団における教科等別の目標」「指導内容」を入力

評価規準が自動的に転記される
※学習集団として目指すものであり、全員共通

⑩ 目標、指導内容等を踏まえて、「評価規準」を入力

⑪ 指導内容等を踏まえて、「手立て、指導上の留意点等」「評価基準」を入力

自動的に転記される

⑫ 個別比較シートを参照し、学習集団としての「手立て、指導上の留意点等」を入力

⑬ 授業実践 ・ 各時期の評価、振り返り等 ※⑭から⑰を時期ごとに繰り返す

⑭ 各時期の終了時点で、「学習評価」「授業者の振り返り等」を入力

自動的に転記される

⑮ 個別比較シートを参照し、学習集団としての「学習状況の評価・授業者の振り返り等」を入力

⑰ 「学習評価」「授業者の振り返り」及び「前時までの課題・改善を要する点」を踏まえて、次の時期の計画を見直し、修正

「課題・改善を要する点」が次の時期に自動的に転記される

⑯ これまでの入力内容を踏まえて、「課題・改善を要する点」を入力

「単元全体」の評価、振り返り等

⑱ 各時期の入力内容を踏まえて、単元全体の「学習評価」「授業者の振り返り等」を入力

自動的に転記される

⑲ 個別比較シートを参照し、学習集団としての単元全体の「学習状況の評価・授業者の振り返り等」を入力

⑳ 単元全体について、「課題・改善を要する点」を入力

集団シートの「単元全体」に入力した内容が、まとめシートに自動的に転記される

まとめシート

㉑ 全ての入力内容を踏まえて、「単元（題材）の評価」を入力し、次単元や次年度の単元（題材）設定に活用する

②各教科等実態把握シート

(1) 単元（題材）に関する各教科等について、各段階等にチェックする

教科等	内容	小学部 (段階)			中学部 (段階)			小学校 (学年)						中学校 (学年)			実態	目標※4	
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	4	5	6	1	2	3			
生活 (特別支援学校)	ア 基本的生活習慣			●														・自分が経験した事実を教師に伝えることができる。 ・買い物の手順が分かり品物を買うことができる。 「知識及び技能」活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。 「思考力、判断力、表現力等」自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。 「学びに向かう力、人間性等」自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。	
	イ 安全		●																
	ウ 日課・予定			●															
	エ 遊び			●															
	オ 人との関わり			●															
	カ 役割			●															
	キ 手伝い・仕事			●															
ク 金銭の扱い			●																

- (参考) 外部サイトへのリンク
小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 文部科学省
- (参考) 外部サイトへのリンク
中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 文部科学省
- (参考) 外部サイトへのリンク
特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料
令和2年4月 文部科学省

教科のボタンをクリックすると目標や内容の一部が別シートで現れる。

外部サイトへのリンクをクリックすると学習指導要領や学習評価参考資料へアクセスする。

②各教科等実態把握シート

(2) 単元（題材）に関する各教科等について、「実態」「目標」を入力

学校 (学年)	実態	目標※4
2 3	・自分が経験した事実を教師に伝えることができる。 ・買い物の手順が分かり品物を買うことができる。	「知識及び技能」活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。 「思考力、判断力、表現力等」自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。 「学びに向かう力、人間性等」自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。

教科のボタンをクリックした後、開いたウィンドウから必要な箇所をコピーして貼り付ける。

学部	小学部	
段階の目標	2段階	3段階
知識及び技能	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付く、感じたことを表現しようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
	ウ 自分のことに取り組もうとし	ウ 自分のことに取り組んだり、

実態や目標は、単元等短い期間ではなく、その教科についての実態や目標を記載する。

②各教科等実態把握シート

(3) 自立活動について入力

自立活動 (※3)	健康の保持	<input type="checkbox"/> ①生活のリズムや生活習慣の形成 <input type="checkbox"/> ②病気の状況の理解と生活管理 <input type="checkbox"/> ③身体各部の状態の理解と養護 <input type="checkbox"/> ④障害の特性の理解と生活環境の調整 <input type="checkbox"/> ⑤健康状態の維持・改善	・日常的な会話については問題ない。 ・活動の際、不安な表情を見せることがある。 ・児童が関心をもって取り組める学習活動を準備し、学習する楽しさを味わうことができるようにする。
	心理的な安定	<input type="checkbox"/> ①情緒の安定 <input checked="" type="checkbox"/> ②状況の理解と変化への対応 <input type="checkbox"/> ③障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	
	人間関係の形成	<input checked="" type="checkbox"/> ①他者とのかわりの基礎 <input type="checkbox"/> ②他者の意図や感情の理解 <input type="checkbox"/> ③自己の理解と行動の調整 <input type="checkbox"/> ④集団への参加の基礎	
	環境の把握	<input type="checkbox"/> ①保有する感覚の活用 <input type="checkbox"/> ②感覚や認知の特性についての理解と対応 <input type="checkbox"/> ③感覚の補助及び代行手段の活用 <input type="checkbox"/> ④感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 <input type="checkbox"/> ⑤認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	
	身体の動き	<input type="checkbox"/> ①姿勢と運動・動作の基本的技能 <input type="checkbox"/> ②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 <input type="checkbox"/> ③日常生活に必要な基本動作 <input type="checkbox"/> ④身体の移動能力 <input type="checkbox"/> ⑤作業に必要な動作と円滑な遂行	
	コミュニケーション	<input checked="" type="checkbox"/> ①コミュニケーションの基礎的能力 <input type="checkbox"/> ②言語の受容と表出 <input type="checkbox"/> ③言語の形成と活用 <input type="checkbox"/> ④コミュニケーション手段の選択と活用 <input type="checkbox"/> ⑤状況に応じたコミュニケーション	

自立活動の記入については、単元に特化したものでもよい。また、「お助けツール」を活用することを勧める。

個別シートと集団シートの記載留意事項

1 授業改善アシスト 個別シート

2 学部・学年等

3 小学部 4年 1組

5

6

7

	実態	教科等別の目標	教科等又は指導形態 (生活・国語・算数)
		実態把握シートより	単元の目標(個別)
全体	・自分が経験した事実を教師に伝えることができる。	「知識及び技能」活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の関わり気付くとも習慣や技能を身に付けるよ	「知識及び技能」買い物の手順や金銭の扱い方などを理解することができるようにする。 「思考力、判断力、表現力等」金銭の大切さや必要性について気付くことができるようにする。 「学びに向かう力、人間性等」自力または教師に支援を求めながら買い物をしようとする態度を養う。
	・ひらがなで書かれた短文	「学びに向かう力、人間性等」自分のことに「知識及び技能」日常生活に必要な国語の知	「知識及び技能」ひらがなで書かれ

手順シートへ戻る
(手順の確認)

次の手順へ進む

(1) 記入する箇所の内容は、黄色で示してしてある。

(2) 幅は、広げたり、狭めたり、記入の量に応じて調整する。

(3) 観点の色分けすると、分かりやすくなります。

(4) 人数分の記入が終わったら、シート右端にある「次の手順へ進む」をクリックし、次の手順へ進む。

(3) 個別シートについては、複数人で作成した場合、個別Aの記入が終わったら個別B、個別Cタブを一人ずつクリックし、記入を行う。

授業の計画



個別シート

③ 各教科等実態把握シートを踏まえ、「単元の目標」と「指導内容」を入力

氏名		教科等又は指導形態	
A児		(生活・国語・算数)	
教科等別の目標			
教科等	実態把握シートより	教科等	単元の目標（個別）
生活	<p>「知識及び技能」活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。</p> <p>「思考力、判断力、表現力等」自分自身や身の周りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。</p> <p>「知識及び技能」日常生活に必要な国語の知識や技能を</p>	生活	<p>「知識及び技能」買い物の手順や金銭の扱いなどを理解することができるようにする。</p> <p>「思考力、判断力、表現力等」金銭の大切さや必要性について気付くことができるようにする。</p> <p>「学びに向かう力、人間性等」自力または教師に支援を求めながら買い物をしようとする態度を養う。</p>
			指導内容
			<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の目的を知ることができるようにする。 ・買い物に必要な学習を行い、買い物の計画が立てられるようにする。 ・仮想の店で、店員役とお客役に分かれての模擬買い物学習ができるようにする。 ・実際のスーパーマーケットに

「単元の目標」は、三つの柱に基づいて入力する。

教科に関する年間の目標は、学習指導要領を基に設定する。ここでは「実態把握シート」からの転記となる。

「単元の目標」「指導内容」は、児童生徒間で共通のものとなり、個別Aに記載すると、個別B・個別C…と、転記される。

集団シート

④ 「学習集団の実態」 「学習集団の目標」 「学習集団における教科等別の目標」 「指導内容」を入力

	学習集団の実態	学習集団の目標	学習集団における教科等別の目標		指導内容
			教科等	単元の目標（集団）	
単元全体	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生の男子3名、女子1名で構成されている。 ・3名がASDを有しており、日常的なことをいろいろと話せる児童がいる一方、自発的な発語の少ない児童もあり、コミュニケーションや認知等の発達状況は多様である。 ・ほとんどの児童が、同種類の硬貨であれば指定された金額を用意することができる。しかし、指定された金額を種類の異なる硬貨を組み合わせで用意することや、提示された金額の硬貨の組み合わせを複数用意することなどが課題である。 ・買い物をする活動には大変意欲的に取り組むことができ、お金を大切に扱う態度も身に付いてきている。 ・スーパーマーケットでの買い物については、一 	<p>「知識及び技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物をすることができるようにする。 （生）金銭の扱い方などを理解することができるようにする。 （国）ひらがなで書かれている商品名を読むことができるようにする。 （算）複数の硬貨を組み合わせで金額を用意することができるようにする。 <p>「思考力、判断力、表現力等」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店員と買い物に必要なやり取りをすることができるようにする。 （生）金銭の大切さや必要性について気付くことができるようにする。 （国）簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動を取ることができるようにする。 	生活	<p>「知識及び技能」買い物の手順や金銭の扱い方などを理解することができるようにする。</p> <p>「思考力、判断力、表現力等」金銭の大切さや必要性について気付くことができるようにする。</p> <p>「学びに向かう力、人間性等」自力または教師に支援を求めながら買い物をしようとする態度を養</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の目的を知ることができるようにする。 ・買い物に必要な学習を行い、買い物の計画が立てられるようにする。 ・仮想の店で、店員役とお客役に分かれての模擬買い物学習ができるようにする。 ・仮想の店でシミュレーションを振り返りながら、実際のスーパーマーケットに行き、買い物ができるようにする。 ・これまでの買い物学習を
			国語	<p>「知識及び技能」ひらがなで書かれている商品名を読むことができるようにする。</p> <p>「思考力、判断力、表現力等」簡単な指示や説明を聞き、その指示に応じた行動を取ることができるようにする。</p> <p>「学びに向かう力、人間性等」言葉でのやり取りを通して、聞いたり伝えたりしようとする態度を養</p> <p>「知識及び技能」複数の硬貨を組み合わせ、金</p>	

(1) 学習集団の実態について、少人数の場合「個」として考えがちであるが、あくまでも学習集団として捉える。

(2) 学習集団の目標について、単元全体の目標を決め、それに基づき、それぞれの教科目標を記載する。学習集団の実態に合わせて目標を設定する。

集団シート

④ 「学習集団の実態」 「学習集団の目標」 「学習集団における教科等別の目標」 「指導内容」を入力

	学習集団の実態	学習集団の目標	学習集団における教科等別の目標		指導内容
			教科等	単元の目標（集団）	
単元全体	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生の男子3名、女子1名で構成されている。 ・3名がASDを有しており、日常的なことをいろいろと話せる児童がいる一方、自発的な発語の少ない児童もあり、コミュニケーションや認知等の発達状況は多様である。 ・ほとんどの児童が、同種類の硬貨であれば指定された金額を用意することができる。しかし、指定された金額を種類の異なる硬貨を組み合わせで用意することや、提示された金額の硬貨の組み合わせを複数用意することなどが課題である。 ・買い物をする活動には大変意欲的に取り組むことができ、お金を大切に扱う態度も身に付いてきている。 ・スーパーマーケットでの買い物については、一人でレジに並んで店員とやり取りしながら支払いができる児童がいる一方、レジに並ぶことにも支援が必要な児童もいる。 	<p>「知識及び技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物をすることができるようにする。 （生）金銭の扱い方などを理解することができるようにする。 （国）ひらがなで書かれている商品名を読むことができるようにする。 （算）複数の硬貨を組み合わせで金額を用意することができるようにする。 <p>「思考力、判断力、表現力等」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店員と買い物に必要なやり取りをすることができるようにする。 （生）金銭の大切さや必要性について気付くことができるようにする。 （国）簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動を取ることができるようにする。 <p>「学びに向かう力、人間性等」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物を通して、人と関わることのよさに気付き、手順に 	生活	<p>「知識及び技能」買い物の手順や金銭の扱い方などを理解することができるようにする。</p> <p>「思考力、判断力、表現力等」金銭の大切さや必要性について気付くことができるようにする。</p> <p>「学びに向かう力、人間性等」自力または教師に支援を求めながら買い物をしようとする態度を養</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の目的を知ることができるようにする。 ・買い物に必要な学習を行い、買い物の計画が立てられるようにする。 ・仮想の店で、店員役とお客役に分かれての模擬買い物学習ができるようにする。 ・仮想の店でシミュレーションを振り返りながら、実際のスーパーマーケットに行き、買い物ができるようにする。 ・これまでの買い物学習を振り返ることができるようにする。
			国語	<p>「知識及び技能」ひらがなで書かれている商品名を読むことができるようにする。</p> <p>「思考力、判断力、表現力等」簡単な指示や説明を聞き、その指示に応じた行動を取ることができるようにする。</p> <p>「学びに向かう力、人間性等」言葉でのやり取りを通して、聞いたり伝えたりしようとする態度を養</p> <p>「知識及び技能」複数の硬貨を組み合わせ、金額を用意することができるようにする。</p> <p>「思考力、判断力、表現力等」買い物に必要な金額</p>	

個別シートで入力した教科等別の単元の目標をコピー＆ペーストする（学習集団の目標と重複する部分が出てきてもよい）。

集団シート

⑤ 目標、指導内容を踏まえて、「評価規準」を入力

評価規準	
教科	3観点での評価規準
生活	<p>「知識・技能」買い物の手順や金銭の扱い方などを理解することができる。</p> <p>「思考・判断・表現」金銭の大切さや必要性について気付くことができる。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」自力または教師に支援を求めながら買い物をしようとしている。</p>
国語	<p>「知識・技能」ひらがなで書かれている商品名を読むことができる。</p> <p>「思考・判断・表現」簡単な指示や説明を聞き、その指示に応じた行動を取ることができる。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」言葉でのやり取りを通して、聞いたり伝えたりしようとしている。</p>

「単元の目標」に基づき、3観点を踏まえた評価規準を設定する。

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」の文末は「～できる」「～している」。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の文末は「～しようとしている」とする。

人数分の個別シートに転記される。

※学習集団として目指すものであり、全員共通のものとなる。

個別シート

⑥ 「実態」「教科等別の目標」「指導内容」「評価規準」を踏まえ、「手立て、指導上の留意点」「評価基準」を入力

手立て、指導上の留意点等	評価基準（判断のための基準）
	教科 3観点での評価基準
<p>・買い物の計画がスムーズに立てられるよう教師が声掛けを行う。また、買い物の手順が理解できるよう手順表や動画等を準備しておく。</p> <p>・スーパーマーケットに行く前に、仮想の店で買い物のシミュレーションを行う。</p> <p>・仮想の店やスーパーマーケットで活動するにあたっては、教師が買い物の手順を口頭で質問しながら確認する。</p> <p>・店員役では、ペアで協力するよう声掛けを</p>	<p>「知識・技能」買い物の手順や金銭の扱い方などを理解し、自力または教師の支援を得ながら買い物の計画を立てることができている。</p> <p>「思考・判断・表現」教師を介して、金銭の大切さや必要性について気付くことができている。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」できるだけ自分の力で買い物をしようとしている。</p>
	<p>「知識・技能」ひらがなで書かれている商品名を、ほぼ自力で読むことができている。</p> <p>「思考・判断・表現」レジの場面で、店員と言葉を</p>

比較シートに転記される。

それぞれの児童生徒の実態に応じた内容を記載する。

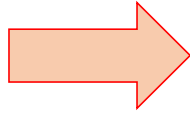
「評価規準」に「手立て・指導上の留意点」を加味して**評価基準（評価のための基準）**を作成する。
 * 学習集団として捉えた評価規準をそれぞれの児童生徒に合わせて落とし込んだものが**評価基準**である。（p.1 参照）

集団シート

- ⑦ 学習集団としての「手立て、指導上の留意点等」を入力、留意する項目にチェック

手立て、指導上の留意点等

- ・買い物の計画がスムーズに立てられるよう教師が声掛けを行う。また、買い物の手順が理解できるよう手順表や動画等を準備しておく。
- ・スーパーマーケットに行く前に、仮想の店で買い物のシミュレーションを行う。
- ・仮想の店には、児童が興味を引くようなレブリカのレジやバーコードリーダーを用意する。
- ・仮想の店やスーパーマーケットで活動するにあたっては、学習計画表に着目させたり動画に注目するよう促したりする。
- ・店員役では、緊張や不安を感じて活動が停滞した際には、適宜説明し直したり、落ち着くよう声を掛けたりする。
- ・仮想の店やスーパーマーケットでの活動の際、実物の硬貨と写真の硬貨を1枚ずつ確認しながらマッチングするよう声を掛ける。
- ・店員とのやり取りにあたっては、仮想の店のシミュレーションを振り返るよう促す。やり取りが難しい児童については、教師が隣につい



- | | | |
|---|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 教材・教具 | <input checked="" type="checkbox"/> ICT活用 | <input checked="" type="checkbox"/> 道具・補助具 |
| <input type="checkbox"/> 指導形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 場の設定 | <input checked="" type="checkbox"/> 指導内容 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 言葉掛け | <input type="checkbox"/> 人員 | |

「手立て、指導上の留意点等」に関しては、学習集団の実態に合わせるが、特徴的な内容についても記載する。その後、入力内容に応じて留意する項目にチェックを入れる。

「時期」に応じた計画

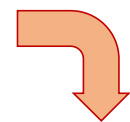


単元によっては、長い時間数を要するものもあるので、必要に応じて時期を分け、作成する。
(最大、時期4まで記載ができる)

個別シート

⑧ 「時期1」から設定した時期（最大「時期4」）までの「実態」「各時期の目標」「指導内容」を入力

	実態	前時までの課題・改善を要する点	教科等別の目標		指導内容
			教科等	各時期の目標	
時期1	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物に対する関心・意欲が高い。 ・買い物の手順が分かり品物を買うことができる。 ・日常的な会話については問題ない。 10までの数を数えることができる。 		生活	「知識及び技能」買い物の手順や金銭の扱いなどを理解することができるようにする。 「学びに向かう力、人間性等」自力または教師に支援を求めながら買い物をしようとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の目的を知ることができるようにする。 ・買い物に必要な学習を行い、買い物の計画が立てられるようにする。 ・仮想の店で、店員役とお客役に分かれての模擬買い物学習ができるようにする。
			国語	「知識及び技能」ひらがなで書かれている商品名を読むことができる。 「学びに向かう力、人間性等」言葉でのやり取りを通して、聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	
			算数・数学	「知識及び技能」複数の硬貨を組み合わせて、金額を用意することができる。 「学びに向かう力、人間性等」金銭の価値に親しみ、買い物に必要な金銭処理をしようとする態度を養う。	



比較シートに転記される。

単元を内容や時間数などで「時期」に分け、各時期に応じた実態や目標、指導内容を入力する。

各時期の目標で扱う柱は必ずしも三つでなくてもよい。単元全体をイメージして扱う内容について入力する。

集団シート

⑨ 個別比較シートを参照し、「学習集団の実態」「学習集団の目標」「学習集団における教科等別の目標」「指導内容」を入力

	学習集団の実態	学習集団の目標	学習集団における教科等別の目標		指導内容
			教科等	各時期の目標	
時期1	<ul style="list-style-type: none"> ・3名がASDを有しており、日常的なことをいろいろと話せる児童がいる一方、自発的な発語の少ない児童もあり、コミュニケーションや認知等の発達の状況は多様である。 ・ほとんどの児童が、同種類の硬貨であれば指定された金額を用意することができる。しかし、指定された金額を種類の異なる硬貨を組み合わせて用意することや、提示された金額の硬貨の組み合わせを複数用意することなどが課題である。 ・買い物をする活動には大変意欲的に取り組むことができ、お金を大切に扱う態度も身に付いてきている。 	「知識及び技能」 ・買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物をすることができるようにする。 (生) 金銭の扱い方を理解することができるようにする。 (国) ひらがなで書かれている商品名を読むことができるようにする。 (算) 複数の硬貨を組み合わせて金額を用意することができるようにする。 「学びに向かう力、人間性等」 ・買い物を通して、人と関わることのよさに気付き、手順に沿って自分なりの方法で買い物をしようとする態度を養う。 (生) 教師に支援を求めながら買い物をしようとする態度を養う。 (算) 金銭の価値に親しみ、買い物に必要な金銭処理をしようとする態度を養う。	生活	「知識及び技能」買い物の手順や金銭の扱いなどを理解することができるようにする。 「学びに向かう力、人間性等」自力または教師に支援を求めながら買い物をしようとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の目的を知ることができるようにする。 ・買い物に必要な学習を行い、買い物の計画が立てられるようにする。 ・仮想の店で、店員役とお客役に分かれての模擬買い物学習ができるようにする。
			国語	「知識及び技能」ひらがなで書かれている商品名を読むことができるようにする。 「学びに向かう力、人間性等」言葉でのやり取りを通して、聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	
			算数・数学	「知識及び技能」複数の硬貨を組み合わせて、金額を用意することができるようにする。 「学びに向かう力、人間性等」金銭の価値に親しみ、買い物に必要な金銭処理をしようとする態度を養う。	

「個別シート」を参照しながら、学習集団を意識した入力をする。

集団シート

⑩ 目標、指導内容を踏まえて、「評価規準」を入力

評価規準	
教科	3観点での評価規準
生活	<p>「知識・技能」買い物の手順や金銭の扱い方などを理解することができる。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」自力または教師に支援を求めながら買い物をしようとしている。</p>
国語	<p>「知識・技能」ひらがなで書かれている商品名を読むことができる。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」言葉でのやり取りを通して、聞いたり伝えたりしようとしている。</p>
算数・数学	<p>「知識・技能」複数の硬貨を組み合わせて、金額を用意することができる。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」金銭の価値に親しみ、買い物に必要な金銭処理をしようとしている。</p>

⑤と同様に、3観点を踏まえた評価規準となるが、必ずしも3観点すべてを扱わないこともある。

学習集団として目指すものであり、全員共通となる。

個別シートに転記される。

個別シート

⑪ 指導内容を踏まえて、「手立て、指導上の留意点等」「評価基準」を入力

手立て、指導上の留意点等	評価基準（判断のための基準）	
	教科	3観点での評価基準
<p>・買い物の計画がスムーズに立てられるよう教師が声掛けを行う。また、買い物の手順が理解できるよう手順表や動画等を準備しておく。</p> <p>・スーパーマーケットに行く前に、仮想の店で買い物のシミュレーションを行う。</p> <p>・仮想の店やスーパーマーケットで活動するにあたっては、教師が買い物の手順を口頭で質問しながら確認する。</p> <p>・店員役では、ペアで協力するよう声掛けをする。</p> <p>・仮想の店やスーパーマーケットでの活動の際、不安な様子が見られたら、実物の硬貨と写真の硬貨をマッチングするよう促す。</p>	生活	<p>「知識・技能」買い物の手順や金銭の扱い方などを理解し、自力または教師の支援を得ながら買い物の計画を立てることができている。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」できるだけ自分の力で買い物をしようとしている。</p>
	国語	<p>「知識・技能」ひらがなで書かれている商品名を、ほぼ自力で読むことができている。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」自ら「お願いします」「ありがとうございました」などの言葉を添えてやり取りをしようとしている。</p>
	算数・数学	<p>「知識・技能」レジで品物の価格に応じ、複数の硬貨を組み合わせて支払いをすることができている。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」金銭の価値に親しみ、買い物に必要な金銭のやり取りを自力でしようとしている。</p>

「手立て、指導上の留意点等」「評価基準（判断のための基準）」は、それぞれの児童生徒の実態に応じた内容を入力する。

比較シートに転記される。

集団シート

- ⑫ 個別比較シートを参照し、学習集団としての「**手立て、指導上の留意点等**」を入力

手立て、指導上の留意点等

・買い物の計画がスムーズに立てられるよう教師が声掛けを行う。また、買い物の手順が理解できるよう手順表や動画等を準備しておく。

・スーパーマーケットに行く前に、仮想の店で買い物のシミュレーションを行う。

・仮想の店には、児童が興味を引くようなレプリカのレジやバーコードリーダーを用意する。

・仮想の店で活動するにあたっては、学習計画表に着目させたり動画に注目するよう促したりする。

・店員役では、緊張や不安を感じて活動が停滞した際には、適宜説明し直したり、落ち着くよう声を掛けたりする。

- | | | |
|---|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 教材・教具 | <input checked="" type="checkbox"/> ICT活用 | <input checked="" type="checkbox"/> 道具・補助具 |
| <input type="checkbox"/> 指導形態 | <input type="checkbox"/> 場の設定 | <input checked="" type="checkbox"/> 指導内容 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 言葉掛け | <input type="checkbox"/> 人員 | |

学習集団の実態に合わせるが、特徴的な内容についても記載する。
⑦と同様、入力内容に応じて留意する項目にチェックを入れる。

⑬ 授業実践



時期を分けている場合、⑭から⑰を時期ごとに繰り返す。

個別シート

- ⑭ 各時期の終了時点で、「**学習評価**」「**授業者の振り返り等**」を入力

学習評価		授業者の
教科	3観点での学習評価	振り返り等
生活	<p>「知識・技能」買い物の手順や金銭の扱い方などを理解し、自力または教師の支援を得ながら買い物の計画を立てることができた。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」できるだけ自分の力で買い物をしようとしていた。</p>	<p>・学級のリーダーとして、単元を通して積極的に学習に取り組むことができた。</p>
国語	<p>「知識・技能」ひらがなで書かれている商品名を、ほぼ自力で読むことができた。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」自ら「お願いします」「ありがとうございました」などの言葉を添えてやり取りをしようとしていた。</p>	
	<p>「知識・技能」レジで品物の価格に応じ、複数の硬</p>	

3観点での学習について評価し、振り返りを行う。振り返りについては、次単元等につながる記載を行う。

比較シートに転記される。

集団シート

- ⑮ 個別比較シートを参照し、学習集団としての「**学習状況の評価・授業者の振り返り等**」を入力

学習状況の評価・授業者の振り返り等
<p>○学習状況の評価</p> <p>「知識・技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物をすることができた。 (生) 買い物の手順や金銭の扱い方などを理解することができた。 (国) ひらがなで書かれている商品名を読むことができた。 (算) 複数の硬貨を組み合わせ、金額を用意することができた。 <p>「主体的に学習に取り組む態度」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物を通して、人と関わることのよさに気付き、手順に沿って自分なりの方法で買い物をしようとしていた。 (生) 自力または教師に支援を求めながら買い物をしようとしていた。 (国) 言葉でのやり取りを通して、聞いたり伝

「個別比較シート」を参照し、個別の学習活動を振り返りながらも、学習集団を意識した記載となる。時期を分けている単元では、前の時期の学習活動をきちんと振り返り、次の時期につなげる。

集団シート

- ⑩ これまでの入力内容を踏まえて、「課題・改善を要する点」を入力

課題・改善を要する点

- ・品物を選ぶことはできたが、レジに並ぶことについては教師の誘導が必要な児童がいた。
- ・品物の理解が進まず、好きな品物をなかなか選ばない児童がいた。
- ・レプリカのレジやバーコードリーダーに興味を示すものの、店員役を担うことができない児童もいた。

「課題・改善を要する点」をピックアップし、見直して修正することで、次の計画につなげる。

個別シート

- ⑰ 「学習評価」「授業者の振り返り」及び「前時までの課題・改善を要する点」を踏まえて、**次の時期の計画を見直し、修正**

評価や振り返り、前時までの課題・改善を要する点を踏まえて、次の時期の計画を見直し、修正する。これを時期ごとに繰り返す。

「課題・改善を要する点」は次の時期に自動的に転記される。

個別シート

- ⑱ 各時期の入力内容を踏まえて、**単元全体の「学習評価」「授業者の振り返り等」**を入力

教科	学習評価	授業者の
	3観点での学習評価	振り返り等
生活	<p>「知識・技能」買い物の手順や金銭の扱いなどを理解し、自力または教師の支援を得ながら買い物の計画を立てることができた。</p> <p>「思考・判断・表現」教師を介して、金銭の大切さや必要性について気付くことができた。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」できるだけ自分の力で買い物をしようとしていた。</p>	<p>・学級のリーダーとして、単元を通して積極的に学習に取り組むことができた。</p> <p>・話し振りはハキハキして淀みないものの、どこまで理解が進んでいるのか計りかねるところもあった。</p>
国語	<p>「知識・技能」ひらがなで書かれている商品名を、ほぼ自力で読むことができた。</p> <p>「思考・判断・表現」レジの場面で、店員と言葉を交わしながらやり取りすることがおおよそできた。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」自ら「お願いします」「ありがとうございました」などの言葉を添えることができた。</p>	

評価基準に基づいた学習評価を記載する。
文末は、「～できた」「～していた」となる。
「振り返り等」は、成果だけでなく、課題や反省点についても入力する。

比較シートに自動的に転記される。

集団シート

- ⑲ 個別比較シートを参照し、学習集団としての**単元全体の「学習状況の評価・授業者の振り返り等」**を入力

学習状況の評価・授業者の振り返り等
<p>○学習状況の評価</p> <p>「知識・技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物をすることができた。 (生) 買い物の手順や金銭の扱いなどを理解することができた。 (国) ひらがなで書かれている商品名を読むことができた。 (算) 複数の硬貨を組み合わせて、金額を用意することができた。 <p>「思考・判断・表現」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店員と買い物に必要なやり取りをすることができた。 (生) 金銭の大切さや必要性について気付くことができた。 (国) 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動を取ることができた。 (算) 買い物に必要な金額を判断することができた。 <p>「主体的に学習に取り組む態度」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物を通して、人と関わることのよさに気付き、手順に沿って自分なりの方法で買い物をしようとしていた。

「個別比較シート」を参照し、学習集団としての「評価」を記載する。
併せて、授業者の振り返りについて記載することで、その後の授業改善につなげられるようにする。

集団シート

⑳ 単元全体について、「課題・改善を要する点」を入力

課題・改善を要する点

- ・練習では落ち着いてできるが、本番になると緊張してしまい、手順を抜かしたり間違えたりする児童がいた。
- ・品物を選ぶことはできたが、レジに並ぶことについては教師の誘導が必要な児童がいた。
- ・品物の理解が進まず、好きな品物をなかなか選べない児童がいた。
- ・レプリカのレジやバーコードリーダーに興味を示すものの、店員役を担うことができない児童もいた。

単元全体について、「課題・改善を要する点」を入力することで、単元全体を俯瞰して捉えることができようにする。
それが、次の授業改善にも生かされる。

まとめシート

㉑ 入力内容を踏まえて、「単元（題材）の評価」を入力し、次単元や次年度の単元（題材）設定に活用する

単元（題材）全体を振り返って					
学習状況の評価・ 授業者の振り返り等	○学習状況の評価 「知識・技能」 ・買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物をすることができた。 (生) 買い物の手順や金銭の扱いなどを理解することができた。 (国) ひらがなで書かれている商品名を読むことができた。 (算) 複数の硬貨を組み合わせて、金額を用意することができた。				
課題・ 改善を要する点	・練習では落ち着いてできるが、本番になると緊張してしまい、手順を抜かしたり間違えたりする児童がいた。 ・品物を選ぶことはできたが、レジに並ぶことについては教師の誘導が必要な児童がいた。 ・品物の理解が進まず、好きな品物をなかなか選べない児童がいた。 ・レプリカのレジやバーコードリーダーに興味を示すものの、店員役を担うことができない児童もいた。				
単元（題材）の評価（○十分である △検討が必要） ※必要に応じて下段にメモを入力					
時期	時数	単元構成	学習グループ	教材・教具	手立て
○	○	○	○	○	△ 店舗に向くので、周知な準備が必要である。

入力は「単元（題材）の評価」のみ

プルダウンで選択後、△の場合、検討内容を簡潔に入力

単元（題材）の評価を、次以降の単元（題材）に活用することができる。

個別比較シート

授業改善アシスト 個別比較シート「単元全体」

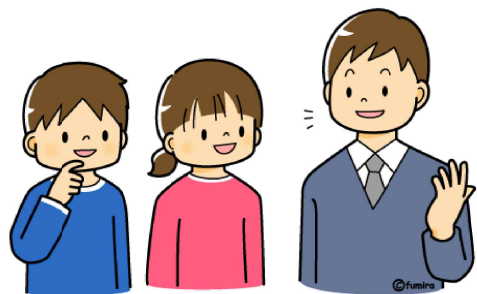
学部・学年等	教科等又は指導形態	(生活・国語・算数)	期別	記入日
	単元(題材)名			記入者

高学年	教科等別の目標		指導内容	手立て、指導上の留意点等	評価基準(判断のための基準)		学習評価	授業者の振り返り等	
	教科等	単元の目標			教科	3観点での評価基準			
A	生活	「知識及び技能」買い物の手順や金銭の扱い方なども理解することができるようにする。 「思考・判断力、表現力等」金銭の大切さや必要性について気付くことができるようにする。 「学びに向かう力、人間性等」自力または教師に支援を求めながら買い物しようとする態度を養ふことができるようにする。	・買い物の目的を知ることができるようにする。 ・買い物に必要な学習を行う。買い物の計画が立てられるようにする。 ・仮想の店で、店員役とお客役に分かれての模擬買い物学習ができるようにする。	・買い物の計画がスムーズに立てられるよう教師が声掛けを行う。また、買い物の手順が理解できるよう手順表や動画等を準備しておく。 ・スーパーマーケットに行く前に、仮想の店で買い物のシミュレーションを行う。 ・仮想の店やスーパーマーケットで活動するにあたっては、教師が買い物の手順を口頭で解説しながら確認する。 ・店員役では、ペアで協力するよう声掛けをする。 ・仮想の店やスーパーマーケットでの活動の際、不安な様子が見られたら、重物の設定と写真の紐付けをマッピングするよう促す。	教科	「知識・技能」買い物の手順や金銭の扱い方なども理解し、自力または教師の支援を得ながら買い物の計画を立てることができている。 「思考・判断・表現」教師を介して、金銭の大切さや必要性について気付くことができる。 「主体的に学習に取り組む態度」できるだけ自分	教科	「知識・技能」買い物の手順や金銭の扱い方なども理解し、自力または教師の支援を得ながら買い物の計画を立てることができた。 「思考・判断・表現」教師を介して、金銭の大切さや必要性について気付くことができた。 「主体的に学習に取り組む態度」できるだけ自分	・学校のリーダーとして、単元を通して積極的に学習に取り組むことができた。 ・話し振りはハキハキして定まらないものの、どこまで理解が進んでいるのか計りかねるところもあった。
	国語	「知識及び技能」ひらがなで書かれている商品名も読むことができる。 「思考・判断力、表現力等」簡単な指示や説明も聞き、その指示に応じた行動を取ることができる。 「学びに向かう力、人間性等」音楽でのやり取りを通して、聞いたり伝えたりしようとする態度を養ふことができるようにする。	・「教科のスーパーマーケット」に行き、買い物ができるようにする。 ・これまでの買い物学習を振り返ることができるようにする。		教科	「知識・技能」ひらがなで書かれている商品名も、ほぼ自力で読むことができる。 「思考・判断・表現」レジの場で、店員と音節を交わしながらやり取りすることがおおよそできている。 「主体的に学習に取り組む態度」自ら「お買いします」「ありがとうございます」などの音節も	教科	「知識・技能」ひらがなで書かれている商品名も、ほぼ自力で読むことができた。 「思考・判断・表現」レジの場で、店員と音節を交わしながらやり取りすることがおおよそできた。 「主体的に学習に取り組む態度」自ら「お買いします」「ありがとうございます」などの音節も	
	算数・数学	「知識及び技能」複数の硬貨を組み合わせて、金額を算出することができる。 「思考・判断力、表現力等」買い物に必要な金額を判断することができる。 「学びに向かう力、人間性等」金銭の価値に仕組み、買い物に必要な金額処理しようとする態度を養ふ。			算数・数学	「知識・技能」レジで商品の価格に応じ、複数の硬貨を組み合わせて支払うことができる。 「思考・判断・表現」商品の価格に必要な金額も、自力または教師の支援を得ながら算出することができる。 「主体的に学習に取り組む態度」金銭の価値に仕組み、買い物で必要な金額のやり取りも自力で行うことができた。	算数・数学	「知識・技能」レジで商品の価格に応じ、複数の硬貨を組み合わせて支払うことができる。 「思考・判断・表現」商品の価格に必要な金額も、自力または教師の支援を得ながら算出することができた。 「主体的に学習に取り組む態度」金銭の価値に仕組み、買い物で必要な金額のやり取りも自力で行うことができた。	
	自立活動	「児童が関心をもって取り組める学習活動を準備し、学習する楽しさも味わうことができるようにする。			自立活動	「児童が関心をもって取り組める学習活動を準備し、学習する楽しさも味わうことができるようにする。	自立活動	「児童が関心をもって取り組める学習活動を準備し、学習する楽しさも味わうことができるようにする。	
B	生活	「知識及び技能」買い物の手順や金銭の扱い方なども理解することができるようにする。 「思考・判断力、表現力等」金銭の大切さや必要性について気付くことができるようにする。 「学びに向かう力、人間性等」自力または教師に支援を求めながら買い物しようとする態度を養ふことができるようにする。	・買い物の目的を知ることができるようにする。 ・買い物に必要な学習を行う。買い物の計画が立てられるようにする。 ・仮想の店で、店員役とお客役に分かれての模擬買い物学習ができるようにする。	・買い物の計画がスムーズに立てられるよう教師が声掛けを行う。また、買い物の手順が理解できるよう手順表や動画等を準備しておく。 ・スーパーマーケットに行く前に、仮想の店で買い物のシミュレーションを行う。 ・仮想の店やスーパーマーケットで活動するにあたっては、教師が買い物の手順を口頭で	教科	「知識・技能」教師の声掛けや手順表で次の行動も確認しながら、丁寧にやり取りすることができている。 「思考・判断・表現」音節等を利用して、金銭の大切さや必要性について気付くことができた。 「主体的に学習に取り組む態度」商品名を漢字大文字で書かれている商品名を読むことができる。	教科	「知識・技能」教師の声掛けや手順表で次の行動も確認しながら、丁寧にやり取りすることができた。 「思考・判断・表現」動画等を利用して、金銭の大切さや必要性について気付くことができた。 「主体的に学習に取り組む態度」商品名を漢字大文字で書かれている商品名も読むことができた。	・手順表で次の行動を確認しながら、慎重かつ丁寧にやり取りしていた。 ・練習では落ちている音が、本音になると間違ってしまうので、聞き取れなかったりすることがあった。
	国語	「知識及び技能」ひらがなで書かれている商品名も読むことができる。 「思考・判断力、表現力等」簡単な指示や説明も聞き、その指示に応じた行動を取ることができる。			教科	「知識・技能」文字カードを参照しながら、ひらがなで書かれている商品名も読むことができる。	教科	「知識・技能」文字カードを参照しながら、ひらがなで書かれている商品名も読むことができた。	

「個別シート」の内容が自動的に転記され、それぞれの児童生徒の状況を1枚のシートで比較することができる。

課題等を整理し、授業改善

次の単元は、シート2から記載



Q & A フレームワーク活用の質問にお答えします



Q 1 一人で記載を進めなければいけないものですか。

A 1 エクセルファイルとなっているので、校務サーバー等で管理ができれば、複数人で作成、活用することが可能です。

Q 2 教職員の中で、情報の共有はどのようにしたら良いですか。

A 2 フレームワークは、実態、目標、支援内容、評価まで記載できるものです。単元設定前の児童生徒の実態の把握、単元設定時の単元の目標、評価規準の設定など、どの場面においても情報共有ができます。また、目標に基づいた評価ができるので、授業の振り返り材料、次単元等へのヒントにもなります。

Q 3 まとめシートは、どのように活用したらよいですか。

A 3 まとめシートの大部分は、個別シート、集団シートで記載されたものが転記される仕組みとなっています。反省点等を確認し次の単元等に生かすことができます。

Q 4 記載する箇所が多いのですが、すべての欄をきちんと埋める必要があるのでしょうか。

A 4 実態把握に基づく、しっかりとした目標や評価規準、評価基準を立てることは目標と評価の一体化において大切です。しかし、単にフォームを埋めることにとらわれてしまうと、負担感も増えてしまうので、活用する視点での利用をお勧めします。

Q 5 「時期1～4」の時期の分け方は、どのように決めたらいいのでしょうか。また、「時期4」まで決めなくてはいけないのでしょうか。

A 5 「時期」は、最大「時期4」まで入力できますが、全部決めなくてかまいません。単元全体をイメージするためのものです。「時期」は、「時期3」まで入力して余裕をもたせておき、足りなかったことを追記するという使い方も考えられます。

○「期間に応じて分ける」という方法 … 「合わせた指導」

○「内容に応じて分ける」という方法 … 「教科指導等」

・千葉県教育委員会からは、

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムとして、

①見いだす ②自分で取り組む ③広げ深める ④まとめあげる
と挙げられています。